



光星底力 乱打戦制す



【八学光星―青森工】8回八学光星死二、三塁。大橋匠吾が左越えにも塁本塁打を放ち、14―10とする。六戸メイアル

青工善戦 一時1点差に

○2年生主体の青森工が、昨夏の甲子園で全員が3年生の八学光星を苦しめた。最大9点のビハインドを一時は1点差まで追いつけた。横内昭大守将は「正直、勝らなかつた」と苦笑いした。四回に1点を加え、5点差とし

八学光星 35110006
青森工 04060006 1017
(8回コールド)
▽本塁打 田中、大橋(光)
▽三塁打 林田、光
▽二塁打 松田、光、石川、岡本(青)
▽暴投 川本(青)
▽試合時間 2時間21分

終盤までひやひや、守備反省

光星

奪った一方、投手を含めた要に追い上げてから畳み掛「スムにさせてしまった」守りは精彩を欠き10失点。八学光星、中澤英明主将(中盤まで善戦を強いられ、異打とて6点を奪ってこ「夏独特の雰囲気はのまれ」)。最終的に点が入って

○2年生主体の青森工が、昨夏の甲子園で全員が3年生の八学光星を苦しめた。最大9点のビハインドを一時は1点差まで追いつけた。横内昭大守将は「正直、勝らなかつた」と苦笑いした。四回に1点を加え、5点差とし、直り、打線は三塁を踏めずまい。最終的にはコールド負けとなったが、秋につながる内容だった。横内主将は「もう一回チャンスをつくれていたら...でも、力を出し切れた」と、後輩たちの成長に期待を寄せていた。